

子どもしんぶん さん太タイムズ 福武グローバル人材育成セミナー「オーストラリア・プレ体験留学」を終えて 7月31日～8月6日 積極性が見ついた 英語学習に意欲 参加生徒13人 気持ちの変化 実感



シドニー大で大学生に英語で突

撃取材

「福武グローバル人材育成セミナー」(福武教育文化振興財団 主催)の一環として7月31日～8月6日に、オーストラリアで「プレ体験留学」が行われ、岡山県内から13人の高校生が参加。同国の公立職業訓練専門学校TAFE

を見学しました。渡航前後で気持ちや考え方がどうかわったのか、参加者の声をまとめました。



今回の成果として、ほとんどの生徒が挙げたのが「積極的になれた」という気持ちの変化です。現地の大学を訪れて、学長名などを学生から聞き出す「突撃取材」や、どんな会話を求められる英語学校の授業などの体験から、「授業で先生より生徒が声を出していたことが印象的。積極性が大事だと思った」(河原さん)「外国の人に話しかけるのが怖かったが、やる気があればなんでもできた。『恐怖も情熱の一部』という言葉を実感した」(井尾さん)「いろいろな国の人がいる環境を見て『自分も頑張らなくては』と思うようになった」(河本さん)などの意見が出ました。

また、全員が英語力を鍛える必要があると痛感しました。「英語はツール。使いこなせるよう努力したい」(高垣さん)「相手の話を理解するため単語をもっと覚えたい」(大野さん)「中学校の文法から復習したい」(渡部さん)「生の英語を肌で感じて、英語を土台作りから勉強し直したいと思った」(川部さん)などと話し、学習意欲を大いに高めました。

TAFEについては「日本で大学進学を考えていたが、気持ちが変わった」(瀬良さん)「自由な雰囲気ですぐに学生が生き生きしている」(大西さん)とおおむね好印象。「留学という進路に可能性を感じた」(谷さん)「海外が好きだと再確認できた。今後の進路につなげていきたい」(岡本さん)「漠然と留学を考えるのではなく具体的な目標を明確にしたい」(水畑さん)「今後は限界を決めず努力して勉強したい」(高山さん)といった声もありました。

一方で将来の夢やお金の問題、語学力の不安などから「進路の一つにはなるが難しい」「大学に進んだ後で留学したい」と話す生徒もいました。

参加生徒

岡本 美雪(芳泉3)、河本 奈々(芳泉3)、大西 真由(就実3)、高垣 絢(金光学園2)、井尾 佳音(津山東2)、水畑 友里(倉敷南2)、河原 菜摘(倉敷南2)、大野 結菜(倉敷南2)、川部 桜(邑久2)、高山 絢乃(林野2)、渡部 菜月(倉敷南2)、谷 尚俊(天城1)、瀬良 みゆき(玉野1)(順不同、敬称略、かつこ内は高校名と学年)「記事・写真は一部割愛」

平成二八年八月二八日付 山陽新聞(さん太タイムズ)